THE PRESS ザ・プレス 国際高

発行所
富山市願海寺水口444番地
富山国際大学付属高等学校
新聞部
ホームページアドレス：https://www.tuins-h.ed.jp
印刷所　北日本印刷株式会社

2026年の目標 情熱に燃える年に

1年生 挑戦して成長
2年生 楽しさと覚悟
3年生 自分を高める

国際生＆先生 恒例 新年アンケート

3年生 昨年の漢字は「楽」

2026年がスタートした。新年の初め、皆さんは今年の目標などを考えていることだろう。そこで、新聞部は毎年恒例、国際生と先生に今年の目標や、2025年を振り返ってどのような年だったのかを聞いてみた。皆さんにとって、2026年が午のようにエネルギーにあふれた良い年になりますように。【古川優香】

Q1．あなたの去年1年間を、漢字1文字で表すと？

1年生全体で最も多かったのは「楽」、時点が僅差で「新」、続いて「幸」、「頑」「努」という回答が多かった。高校生活が始まったことが大きく影響していると思われる。2年生も「楽」が圧倒的多数だが、「勉」「努」「頑」が続く。高校生活を楽しみながら、来年の受験を意識した漢字や、多忙さを表す漢字が今年は多かった。3年生も一番多かった漢字は「楽」、続いて「努」「頑」「勉」と、受験勉強のために努力を続けたようだ。

【その他】
「熊」富山県南部を中心に自分の家の近くにも熊が頻出、ニュースや生活に影響があったから　（1年）
「嬉」たくさんの人と出会いうれしいことがたくさんあった年だったから　（1年）
「恋」大恋愛をしたから　（1年）
「米」コメのありがたみを知ったから　（2年）
「開」自分の思っていることや、感じたことを表に出したり、内気な自分が留学に行って知らない人との交流を行ったから　（2年）
「成」中学、高1よりも学習面・精神面での成長を感じたから　（2年）
「初」初めて万博に行って、初めて見るものがたくさんあったり、初めて研修旅行にも行ってしっかり帰ってくることができた。初めてが多かった年だった　（2年）
「踏」踏ん張って頑張った。一歩ずつ踏み出せた　（3年）
「鯖」鯖の味噌煮を今年初めて食べて信じられないくらい美味しかったから　（3年）
「眠」3年生になると忙しくなり睡眠が十分に取れず眠かったから　（3年）
「雲」将来や受験に対する不安で心の中の天気は曇りだった　（3年）

【先生編】
「連」ドジャースのワールドシリーズ連覇などの○の部分と、ウクライナ戦争の戦闘の連続や中東戦争の連鎖など×の部分が目立ったから　（大塚先生）
「忍」耐え忍ぶことが多かったから　（端野先生）
「視」様々な分野の動画を視聴して学んだから（山田先生）
「新」新たな学年で新たな生徒たちと出会った（庄司先生）
新たな環境で、毎日が新たな発見と学び直しの一年でした　（吉國先生）
「急」何をするにも急いでいた気がします。あっという間の一年だったから（高道先生）
「会」多くの人と出会い、経験を通して自分自身にも出会えたから　（浅井先生）
「寿」初の担任や結婚など、今まで一番忙しい慌ただしい年だったから　（砂田先生）
「挑」初めてピアノに挑戦した。チーム（部活）も一から挑戦した　（橋川先生）
「孫」次女が赤ちゃんを授かり、ちょくちょく実家に連れてくるので、孫守りに励んだ　（本波先生）
「静」Life goes on（ワン先生）

Q2．去年、一番頑張ったことを教えてください

全学年共通で多かったのが「部活動」「勉強」で、1年生は高校生活のリズムに合わせるために「規則正しい生活」、2年生は「学校行事の運営」などが挙げられ、3年生はそれに加えて、最後の高校生活を楽しみ、受験を乗り越えた人が多いことがわかる結果となった。

【その他】
英語の勉強　（1年）
色々なボランティアに参加　（1年）
大きな声であいさつ　（1年）
自分から話しかけて、友達を作ること　（1年）
親の手伝いと田植えと勉強　（1年）
知らなかったことを知ることができるよう頑張った（1年）
部活でいい結果を残すためにたくさん練習したこと（2年）
毎日元気で学校に行く（2年）
本をたくさん読んだ　（2年）
無遅刻無欠席　（2年）
文化祭や体育祭の準備（2年）
情報オリンピックの予選　（2年）
大学受験とその対策　（3年）
早起きして学校に行くこと　（3年）
インターネットの正しい使い方　（3年）
メンタルケア　（3年）
食べること　（3年）

【先生編】
犬の世話　（藤森先生）
結婚の準備　（砂田先生）
読書　（作農先生）
マラソンの練習　（串田先生）
通勤　（山田先生）

Q3．今年の目標を教えてください

全学年を通して「受験や英検の勉強を頑張りたい」という意見が寄せられるとともに、「今できる新しいことに挑戦したい」という意欲的な回答や、「健康管理をする」という自己研鑽に努める声が多かった。また、3年生は新生活への期待があふれる回答が多数を占めた。どの学年も、多くの人が情熱に燃えていることがわかる。

【その他】
できるだけ後悔をなくす　（1年）
留学や海外研修を頑張る　（1年）
自分らしく前向きに取り組む　（1年）
校長先生がおっしゃったように、「いい感じ」にしたい　（1年）
家族を甲子園に連れて行く　（1年）
素敵な人になる　（2年）
部活と学校のメリハリをつける　（2年）
大学受験に向けて、資格や良い成績を取る　（2年）
自分の気持ちに嘘つかない　（2年）
筋肉をつける　（3年）
中国語の勉強を頑張る（3年）
継続力を高める　（3年）
大学生活に慣れながらも、資格を取る　（3年）

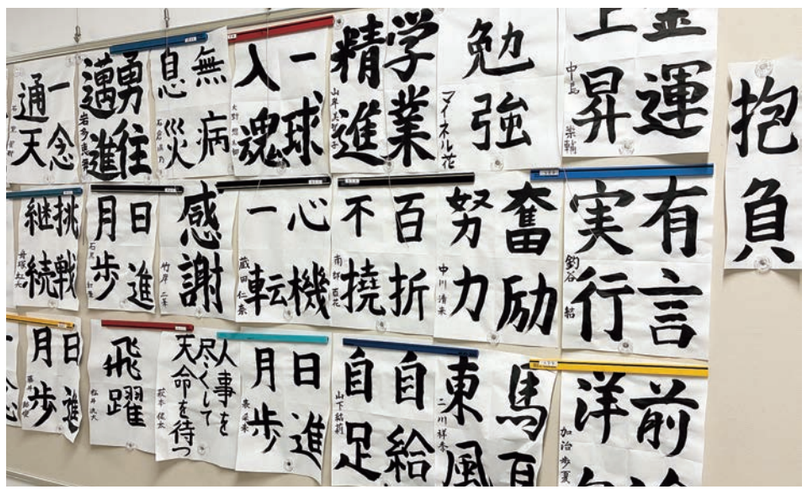
【先生編】
無事故・無違反・ゴールド免許　（山田先生）
昨年よりも甘いスイカを育てる　（紫先生）
昨日の自分に勝つ！　（浅井先生）
問題解決をうまく乗り切る　（端野先生）
Healthy　（ワン先生）

Q4．今年はどんな年にしたいですか

「さらに成長できる年」「健康に過ごせる年」などの自己研鑽や体調管理に努める声が多く寄せられた。1年生は高校生活2年目に突入する意気込み、2年生は高校生活最後に向けての決意、そして3年生は、環境が変化することに伴って新たに挑戦したいことなど個性的な思いが感じられた。

【その他】
笑顔あふれる年　（1年）
努力が実る、努力を実らせる年　（1年）
財布をなくさない年　（1年）
午のように駆け抜けたい　（1年）
「愛」これが大事　（1年）
全てを成し遂げる年にする！　（2年）
自分の夢を叶えに行く年　（2年）
カロリーを摂りすぎない！　（2年）
時間を一つ一つ大切にする　（2年）
自分の人生の転換期になる年　（2年）
ポジティブマインドの年　（3年）
華々しい大学デビューを飾り、大学4年間の最高のスタートダッシュを決める年（3年）
今しかできないことをする　（3年）
頑張った！と言える年にしたい　（3年）

【先生編】
関わる人全てを幸せにしたい　（野村先生）
十分な睡眠と早起きをしていきたい　（作農先生）
健康　（片山先生）
自律した年　（田畑先生）
やれる限りやり切る年　（山田先生）


1年生書道選択者の書き初め（今年の抱負）

続・海外特派員通信

ドイツの良さを見つける日々

松本　昇さん（22H）From ドイツ

毎回好評の、海外留学中の国際英語コース生による「海外特派員通信」。今回は、昨年8月からドイツ・ルトライン＝ヴェストファーレン州のMarie-Curie-Gymnasium Neuss（マリー・キュリー・ギムナジウム・ノイス）に留学している松本昇さん（22H・新聞部員）に伝えてもらう。

Guten Tag!ドイツに留学している2年生の松本昇です！皆さん、冬休みはどのように過ごされましたか？私は本場ドイツでクリスマスマーケットに行ったり、ホストファミリーと過ごしたりなど、今までとは一味違ったクリスマスを過ごしました。そんなドイツにはクリスマス以外にも魅力がたくさん！そこで、皆さんにドイツの魅力と私がどのように生活しているのかをお届けしたいと思います！

私が住むノイス市はドイツの西側、ライン川のすぐそばに位置する街で、2千年以上の古い歴史を持つ古都としても知られています。近郊には州都デュッセルドルフやケルン、ドルトムントなど大都市が多く、日本企業も多く進出しています。

ドイツでの生活は英語だけでは難しく、ドイツ語が求められます。街の標識や看板はすべてドイツ語であり、英語を話せない人も多くいます。また授業はすべてドイツ語で行われ、理解するのに一苦労。テストは日本と同じレベルの問題がドイツ語で出されるため、ドイツ語の習得が最優先です。ですが、ドイツは移民が多い国のため多くの学校で移民生徒向けの初心者ドイツ語クラスを受けることができます。私の学校にはトルコ系やパキスタン人、スリランカ人、ウクライナ人、ポーランド人など様々な人種の人が多く集まっており、私のクラスはドイツ人のほうが少ないです。ドイツでは移民が社会的問題としてたびたび話題になっていますが、留学をしているとドイツの社会は移民に依存しているところが多くあると感じます。実際に生活をしてみると、ドイツ全体が移民労働者に依存している状況が見られました。

だからこそ、すべての人や場所で英語が伝わるわけではないため、ドイツ語の大切さが強く感じられます。私はまだまだ勉強の途中ですが、最近少しドイツ語で話ができるようになってきました。私が学校生活で強く感じていることは、周りの生徒の言語習得能力の高さです。私のウクライナ人の友人は去年ドイツに移住し、1年でドイツ語をマスターしてドイツ語で授業やテストを受けたり、会話をしたりなどしています。また、他の友人はトルコ語が母国語でありながら、カザフスタンに住んでいた経験があるため、カザフ語、ウズベキスタン語、ロシア語など幅広い言語を話すことができます。日本人がドイツ語を学ぶのは非常に難しいとされていますが、周りの友人たちが良い影響を与えてくれるため、楽しくドイツ語の学習を行うことができています。

ホストファミリーとは英語が基本で、簡単なドイツ語を交えながら会話を行っています。私のファミリーは両親と年下の妹が二人で、一番下の妹以外みんな英語を流ちょうに話すことができます。ドイツに留学している他の生徒の話を聞くと、すべての家族が英語を流ちょうに話すわけではありません。中には基本的にドイツ語でしかコミュニケーションをとらないという生徒も多くいます。ドイツに留学する良さの一つである新しい言語を学ぶことができるということは、英語の他にも話せるようになりたいと思っているあなたにピッタリかもしれません！

ドイツで生活しているとドイツ文化の美しさを感じることができます。たとえば、世界遺産としても知られるケルン大聖堂。約157㍍のその高さは圧巻であり、クリスマスにはたくさんの人でにぎわいます。また、旅行で訪れたブレーメンでは市役所も世界遺産に登録されており、15世紀のゴシック彫刻と17世紀のバロック彫刻を一度に楽しむことができます。ドイツ文化の美しさは建物だけではありません。10月にオクトーバーフェスト、12月にクリスマス、4月にイースター。時期によって街の雰囲気がガラッと変わり、季節ごと楽しむことができます。食べ物も魅力の一つです。シュニッツェルやソーセージ、ジャガイモ料理など美味しいものがたくさん。特にソーセージは種類が豊富で季節、地域によって味が違い、どこに行っても美味しいソーセージを食べることができます。スーパーに売られている安いソーセージでも日本のソーセージより美味しいと感じることが多くあります。ドイツに来てみた際はスーパーに立ち寄ってみてください！

ドイツに来てすでに4か月と半分。これから留学の折り返しに入っていきますが、これからもドイツの良さを見つけていきたいと思います。

ホストファミリーと（松本さんは左端）

個性の色　輝く

第35回文化祭　開催

第35回文化祭が10月31日、「Universe～輝け、私たちの色～」のテーマのもと、盛大に行われた。

ハンドベルの演奏を披露する1年生＝短大体育館

短大体育館で各クラス独自のTシャツに身を包んだ全校生徒が鑑賞したステージは、開会宣言の後、1年生の音楽選択者によるハンドベル演奏と合唱で幕開け。長期留学から帰国した国際英語コース3年生が現地での体験や学校での様子などを流ちょうな英語で発表し、続けて、3年生代表が探究活動の成果について発表した。また、メディア・テクノロジー部が「機械の眼」と題し、最先端の研究成果の数々を披露。生徒らは感心して聞き入っていた。

ステージ鑑賞の後は各展示の自由鑑賞時間となり、テーマに沿って工夫を凝らした体験型の展示を準備した1、2年生の教室に多くの生徒が集まっていた。家庭部はカップケーキを各フロアで移動販売し、茶道部は国際交流室でお茶のおもてなし、吹奏楽部はエントランスでパフォーマンスを行った。その他の文化部の展示も行われ、生徒らと250人を超える保護者が各会場を回って楽しんでいた。模擬店も盛況で、エントランス前で特製焼きそば、豚汁の他、コロッケなどに行列ができた。PTAの方々によるもなかアイスの提供もあった。

閉会行事でクラス展示の表彰があり、校長賞に「不思議の国のアリス」の世界観を作り上げた1年1組の「Alice in Yuki world」、PTA会長賞に1年3組の脱出ゲーム「昭和・平成館」が輝いた。写真で振り返る恒例の放送部スライドショー上映で締めくくられた。

姉妹校・大田外国語高校が来校

韓国・大田広域市にある姉妹校、大田外国語高校からの訪問団が1月21日に来校した。本校への訪問交流は2017年1月以降、4回目。同校とは2018年に姉妹校提携を結び、定期的に相互訪問している。

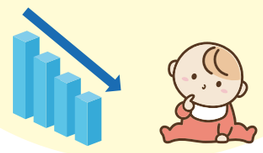
楽しそうに花を生け交流する両校の生徒

来校したのは日本語科1年生の26人と引率の先生3人。この日、午前中はホスト生のクラスで一緒に授業を受け、午後は多彩なアクティビティーを体験した。国際英語コース1年生との交流会では、グループに分かれて英語や韓国語、日本語で好きな音楽や料理などをテーマにディスカッションした。

華道体験では、韓国の生徒がホストファミリーを思い浮かべてキクやガーベラ、カーネーションなど色とりどりの花を生け、ホストファミリーに贈る花束を作った。

光彩ホールで行われた歓迎式では互いの学校や地元について紹介し、本校生徒によるピアノとギターの演奏や歌の披露で盛り上がった。韓国の生徒は流ちょうな日本語で自国の文化などを紹介した。キム・ガンミンさんは「国際高校の生徒の皆さんと一緒に会話ができて本当にうれしかった」と話していた。

部説　止まらない人口減少　高校生の未来は？



近年、ニュースで「人口減少」という言葉を何度も耳にする。少子化対策の重要性については政治の場でも話題となっており、高市早苗首相も「日本最大の問題は人口減少だ」と強調している。しかし、そうした発言を聞いても、「自分たちには関係ない話」と受け流してしまっている人は多いのではないだろうか。人口減少は将来の日本の問題であり、その深刻さを実感している人は決して多くないかもしれない。だが実際には、その影響はすでに私たちの身近に現れている。

例えば、私たち高校生に身近な存在である学校に目を向けてみる。クラスの数が減ったり、部活動で部員が減少したりしていくことは珍しくない。学校の統合や廃校の話も聞いたことがある人もいるだろう。地域に目を向ければ、商店街の衰退や空き家の増加が目立ってきている。こうした変化は、「人口減少」がすでに進行している現実を示している。

実際、総務省の発表によると、日本の人口は16年連続で減少しており、昨年度は前年度から約91万人減少した。しかも、減少数は過去最大を更新している。人口が減るということは、将来働く世代の数が減るということであり、一人一人の負担が今よりも大きくなると指摘されている。これは、私たち高校生が社会に出る頃に、のしかかってくる問題だ。

こうした状況を受け、政府は少子化対策として、子育て支援の充実化や経済的援助など、さまざまな政策を進めてきた。

人口減少の背景には、結婚や出産のハードルが高くなっていることがある。「子どもを持ちたい」と思っても、学費や生活費への不安、将来の収入への不安が重なり、簡単に決断できない人が増えているのではないだろうか。安定した生活を求める若者にとって、将来を見通せない社会となっていることは大きな不安要素となっている。そうした選択をしにくくしている社会のあり方そのものを見つめ直す必要がある。

人口減少対策として出生数を増やすことばかり目を向けるのではなく、若者が将来に希望を持ち、安心して生活できる環境を整えることが何より重要だ。進学や就職を考える私たち高校生にとっても、「この社会で生きていけるのだろうか」という不安は決して小さくはない。だからこそ、若者が何を求め、何に不安を感じているのかを社会全体で受け止める姿勢が必要だと感じる。

ここで忘れてはならないのは、この問題の影響を最も長く受けるのは、私たち高校生の世代だということだ。「仕方のないこと」と思わず、人口減少を自分ごととして捉え、興味・感心を持ち、考え続けることが重要である。すぐに状況が大きく変わるわけではないが、無関心でいることこそが、この状況を深刻にさせてしまう。人口減少の時代を生きる当事者として、私たち一人一人がこの問題と向き合っていかなければならない。

かざぐるま

今、私たちが学校で学んでいることは、進路にどのようにつながっていくのだろうか。将来の夢が明確でない私たちにとって、勉強をする意味がわからなくなる瞬間は少なくないはずだ。「この教科は将来、役に立つのか」と疑問を抱いた人も多いのでは★しかし、学校で学んでいるのは、テストに出る知識だけではない。例えば数学は、答えがすぐに出なくても、途中式を書き直したり、何度も考え直したりすることで、最後まで解き切る力を磨くことができる。これが、社会に出て様々な課題に直面した時、粘り強く考え、それを乗り越え解決する力につながる。また、授業だけでなく、提出物の期限を守ることや、グループ活動で役割を果たすことも重要な学びだ。これらは、進学しても就職しても求められる基本的な姿勢になる★進路とは、今の時点で一つに決めるものではなく、経験を重ねる中で少しずつ形づくられていくものだ。だからこそ、今学んでいることがすぐに将来と結びつかなくても、その過程に意味があるのではないか。さらに、学校生活の中での失敗や迷いも、進路を考える上で大切な材料になる。うまくいかなかった経験があるからこそ、自分に合う道や苦手なことに気づくことができる。今は意味がないように思える学びも、後になって自分を支える力になると考えれば、日々の勉強や活動に向き合う姿勢も少し変わるのではないか。【関瑛基】

特集

２年生 研修旅行

５コースで貴重な体験

２年生は12月15日から、海外３、国内２コースに分かれて研修旅行に出かけた。今回のコースと参加人数は、シンガポール106人、オーストラリア17人、韓国42人、関東45人、沖縄25人。
今回も有意義な研修にするため、コースごとに事前学習に取り組んでから出発した。各コースとも、貴重な体験をして実りある研修になったようだ。各コースに参加した新聞部員（＋α）による紀行文と写真を掲載する。

文化・歴史・自然を満喫　オーストラリアコース

ケアンズのエスプラネード・ラグーンで

私たちは、12月15日から19日まで3泊5日のオーストラリア研修旅行に参加した。このコースは16人の生徒が参加した。

1日目は、富山駅から成田空港へ移動した。成田空港で集合写真を撮り、ケアンズに向けて出発した。

2日目は、10時からハートリーズ・クロコダイル・アドベンチャーが行われた。最初に、クロコダイル・ボートクルーズに参加した。間近で見るクロコダイルは迫力があり、餌を食べる姿は非常に見応えがあった。クルーズの後、熱帯森林再生プロジェクトに参加した。このプロジェクトは、ハートリーズの敷地内にある世界遺産の森に植林を行うことが目的だ。その後、園内でバーベキューランチを行った。食後は各自で動物園内を散策し、オーストラリアを象徴する動物であるカンガルーやコアラ、ウォンバットなどを見たり、カンガルーに餌を与えたりした。17時からはナイトマーケットで、各自夕食をとった。

3日目は、9時からB&Sプログラムが行われた。各班に1人の大学生が加わり、ケアンズの街を散策するプロジェクトだ。私たちの班はミッチさんと行動を共にした。まず自己紹介をして、話をしていくうちにミッチさんが日本のアニメやキャラクターが好きだと知り、一気に会話が盛り上がった。昼食はレストランでハンバーガーを食べた。お肉の種類や辛さまで選択肢が豊富だった。ショッピングセンターに向かう道中、オーストラリアの文化や歴史、有名なものについてミッチさんと話をした。ショッピングセンターの中にあったスーパーマーケットで、オーストラリアで美味しいチップスを教えてもらい、たくさんのお土産を買った。そしてホテルに着き、大学生の皆さんとお別れした後、ナイトマーケットで各自夕食を済ませた。20時15分からワイルドアニマル探検ツアーに参加した。このツアーでは野生の動物を間近で見ることが可能だが、開始時は雨が降っており、ガイドさんから「動物はあまりいないかもしれない」と言われた。しかし、普段はツアーで10～20匹程度のワラビーを見ることができるとのことだったが、今回は40匹以上も見ることができた。その後、ワラビーの看板の前で同じポーズをして写真を撮った。ツアーの終わりには雨も上がり、美しい星空を見ることができた。そしてホテルに戻り、3日目が終了した。

4日目は、ケアンズ空港から成田空港へ移動し、成田で宿泊した。翌日の13時54分、富山で解散した。【HM】

有意義な４日間過ごす　シンガポールコース

マーライオン公園で

私たちは12月15日から19日、3泊5日にわたるシンガポールの研修旅行を行い、106人の生徒が参加した。

1日目は、シンガポール・チャンギ空港からマーライオン公園へ向かった。そこでバスの号車順に全体写真の撮影が行われ、その後は集合時間までそれぞれが思い思いの時間を過ごした。19時から食事会場にて夕食をとり、20時45分にホテルに到着して1日目の活動を終えた。

2日目は10時からB&Sプログラムが行われた。それぞれの班に1人の大学生が混ざり、英語のコミュニケーション能力を高め、シンガポールについての見聞を深めることを目的に活動した。私たちの班はリッキー・ホーさんとともに、シンガポール動物園に向かった。そこでは、シンガポールにしか生息していない動物がどのような環境で生活しているかなどを知ることができた。動物園を出た後、飲食店に入り昼食を取って、リッキーさんに質問をした。シンガポールの生活、その歴史や文化、話せる言語、日本に関する知識などについての質問だ。特に日本に関する質問では、「日本語は難しいが興味がある、日本については温泉、焼肉が有名ということを知っている」と答えた。そして、ホテルに着きリッキーさんと別れ、2日目の活動を終えた。

3日目、7時15分にホテルを出発し、マレーシア・ジョホールバルへ向かった。9時30分、シナラン村に到着し、少しの間ホームステイを行った。マレーシアの文化は日本と大きく違い、マレー系でイスラム教を国教とし、食文化もハラル料理が根付いて右手で食べるという食べ方だった。その後、マレーシア伝統の遊びであるチョンカをルールを教わりながら遊んだ。13時30分、ジョホールバルを車窓から観光した。17時30分、シンガポールに再入国し、シンガポール動物園でナイトサファリの見学を行った。シンガポールの動物の生活を2日目よりも詳しく知ることができた。

4日目、シンガポール研修最終日だったこの日は10時から自主研修。私たちの班はアートサイエンスミュージアムへ足を運んだ。シンガポールの自然やエネルギー循環の様子を知ることができた。その施設にあるチームラボに入り、有意義な時間を過ごすことができた。

そして、18時45分にシンガポール空港に到着し、翌日1時20分、シンガポールから日本への帰路に就いた。【田辺一真】

文化や人の温かさに触れる　韓国コース

ソウルの世界遺産、昌徳宮の仁政殿前で

初日の15日は、富山空港から羽田空港を経由し、金浦空港へと向かった。長時間の移動となったが、大きなトラブルもなく無事に韓国へ到着した。この日は移動を中心とした行程となり、ホテルで翌日からの活動に備えた。初めて海外を訪れる生徒も多く、空港や街の雰囲気に触れながら、期待と緊張が入り混じった様子が見られた。

2日目はまず、ソウル市内の半日観光。世界文化遺産に登録されている昌徳宮では、自然と調和した宮殿造りに触れ、韓国の歴史の深さを感じた。また現地のガイドさんが建造物や韓国の歴史について丁寧に説明した。北村韓屋村では、伝統的な家屋が今も生活の場として残っていることに驚きの声が上がった。歴史ある建造物や街並みに触れ、韓国の伝統文化を身近に感じる機会となった。また、芸術と文化の街として知られる仁寺洞屋、多くの人で賑わう南大門市場を散策し、歴史と現在の生活が共存する様子を感じた。午後からは韓服体験やK-POPダンス体験、韓国料理体験を行い、衣・食・文化の三つの側面から韓国の魅力を学んだ。

3日目はB&Sプログラムに参加し、現地の大学生と交流しながら観光した。日本語や英語を交えた会話をしながら、自分たちが行きたい場所へ案内してもらったり、おすすめ場所へ連れて行ってもらったりした。国を越えたつながりを実感する機会となった。その後、明洞で班別自由行動を実施した。夜にはNANTA明洞公演を鑑賞し、言葉に頼らないパフォーマンスの迫力や表現力に魅了された。

4日目は午前中にロッテワールドアドベンチャーを訪れ、班のメンバーと一緒にアトラクションに乗ったり、食べ物を食べたりして楽しんだ。午後からロッテワールドソウルスカイへ移動し、展望台からソウル市内を一望した。高層階から見る街並みは印象的で、多くの生徒が写真を撮り感動している様子が見られた。夕食にはサムギョプサルを笑顔で楽しんだ。

最終日の19日は、金浦空港から羽田空港を経由して富山空港へ。5日間という短い期間ではあったが、今回の研修を通して生徒たちは韓国の文化や人々の温かさに触れ、視野を広げる貴重な時間になった。【西森麻葉】

空気や人の営み　肌で感じる　沖縄コース

エイサー体験＝恩納村ふれあい体験学習センター

12月16日、小松空港側で轟音を響かせて離陸する戦闘機の姿に興奮しつつ機内へ。泣いている赤ちゃんを優しくあやすCAさんの姿に、旅の始まりから温かい気持ちになりました。しかし、那覇に到着して最初に驚いたのは、噂に聞いていた激しい交通渋滞です。ゆったりした南国のイメージとは違う、沖縄の都市としての一面を垣間見ました。

2日目は、守礼門からスタート。ここでは沖縄のおばちゃんたちの巧みなセールストークに完敗し、気づけば手には予定以上の大量のお土産が…。続く国際通りでは、その長さと活気に圧倒されました。移動中の貸切バスに一般の方が間違えて乗り込んでくるという珍事件には、車内が驚きと笑いに包まれました。美ら海水族館で雄大な海の世界に触れた後、ホテルの部屋のベランダから見えた夕暮れのビーチは、忘れられない景色です。

3日目はジャングリア沖縄へ。強風の影響で一部のアトラクションが運休だったのは残念でしたが、メインのダイナソーサファリのスリルは十分でした。そして、恩納村でのエイサー鑑賞。太鼓の鋭い音と力強い踊りを間近で見て、沖縄の人々が守り続けてきた伝統の魂に触れた気がして、とても感動しました。

最終日、帰りの飛行機までサプライズの連続でした。プロバスケチーム「琉球ゴールデンキングス」の選手と同じ便だったり、搭乗初日に見かけたあの赤ちゃんと再会したり。美ら海水族館コラボの機体に乗れたことも良い思い出です。

この4日間を通じて、私は沖縄の「熱量」を感じました。渋滞の多きも、おばちゃんの元気も、エイサーの激しさも、すべてが生き生きとしていました。ただ観光地を巡るだけでなく、その土地の空気や人の営みを肌で感じることが、旅の本当の醍醐味なのだと学びました。【YO】

「初めて」多く　かけがえない体験に　関東コース

東京湾ランチクルーズに出発＝日の出ふ頭

初日は、東京湾ランチクルーズで綺麗な東京湾を一望しながら昼食をとった後、チームラボプラネッツに行った。チームラボプラネッツにはWater、Garden、運動の森、Forestエリアがあったが特に印象に残ったものがある。Waterエリアは、裸足で水の中に入り、膝丈まで水に浸かる作品が中心だった。光の粒子が流れる滝のような坂道を、水に浸かりながら上がり、水面に映る鯉が描く軌跡が美しい場所があった。とても没入感があり楽しいエリアだった。Gardenエリアは本物の花や苔を使った自然とデジタルが融合した空間だった。1万3千株以上の生きたランの花が空間を埋め尽くし、人が近づくと花が上がり道が生まれた。床は鏡になっていて、花たちに囲まれる没入感が味わえた。また、劇団四季の「ライオンキング」鑑賞は、舞台全体を使ったダイナミックな演出にとても感動した。

2日目は、東京スカイツリーに行った。高さが634㍍あり、自分の想像していた以上の高さに驚いた。最上階まで上がると東京の景色は見渡す限りビルばかりで、いつもの見慣れた富山の景色よりも込み合っていた。TOKYO GLOBAL GATEWAYを訪れ、海外をイメージして作られた場所でいつもと違う環境の中、グローバルな世界を体験した。

3日目は、東京ディズニーシーを訪れた。私は初めて行ったが、人の多さに圧倒されつつ、タワー・オブ・テラーにいざ乗ってみると気絶しそうになった。

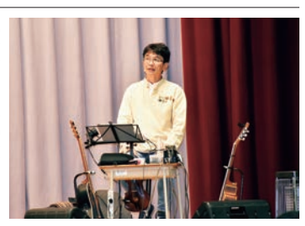
最終日は都内近郊で自由行動をした。私は池袋のアニメイトまで行き、漫画やグッズを買った。

この研修旅行では、普段なかなか行けない場所に行くことができ、私が初めてなことも多く貴重な4日間となった。このかけがえのない経験を活かし、自分の成長につなげながら今後の高校生活をより充実させたい。【OS】

命の重み伝える　21年目の「地球のステージ」

21年目となる恒例行事「地球のステージ」が12月10日、短大体育館で開催され、NPO法人地球のステージの代表で心療内科医の桑山紀彦さんが、紛争地などでの経験や出会った人々との物語を自作の音楽と映像を交えて紹介した。

今回の公演は、フィリピン、ウクライナ、そして激しい紛争が続くパレスチナを主題とし、SDGsの16番（平和と公正）、17番（パートナーシップ）と関連付けながら熱いメッセージが伝えられた。耳を傾けた多くの生徒の心を動かし、「平和」について考えるきっかけとなった。


熱く語りかける桑山さん＝短大体育館

編集手帳

高校生活ほど儚いものはない。
キヨジ

どのくらい雪積もるかなあ
すのー

今年も健康に過ごしたい
雪だるま

カイロで低音火傷泣　とうゆ
フラッシュばっく　ハラハラ
大学入試が近づいてきてしん
どい　昆虫好き
寒すぎてマックのホットパイ
たべたい　春いつ来るの
寒いから布団からでたくない
ppp
はやく雪積もって家にずっと
おりたいです　いちご
お疲れ様でした。寒くて眠い
です　抹茶
年賀状友達に送ろうと思った
けどやめました　トッポギ